

リーダーがしなければならない24 (のがしたこと→正しい契約回復)

▶序論 - 福音 (=契約)

▶ありがとうございます。拍手を10回ぐらいしますと、癌細胞が20個ぐらいなくなると聞きました。拍手は、健康にとっても良いということです。

▶皆さんはリーダーです。だから、とても重要ないくつかのことを見つけていかなければなりません。リーダーとは、なにがでなければならぬのでしょうか。まず、世界を導いた人々を見なければなりません。世界を動かしたレムナントです。世界を導いたレムナントは、どこが他の人と異なっていたのでしょうか。皆さんにとっても、とても重要な部分になってくると思います。皆さんもよく知っている聖書箇所を見ていきたいと思えます。

1) 創世記 45 : 1-15

▶創世記 45 章、総理になったヨセフの言葉です。誰に対しての言葉だったかと言いますと、恐れて震えていた兄たちに向かっての言葉でした。なぜなら、兄たちはヨセフを殺そうとして売ったでしょう。しかもいちばん悲惨な奴隷として売ってしまったのですが、そんなヨセフが総理になっていたわけです。その時、ヨセフが兄たちに向かって語った言葉です。「恐れてはなりません。悩んでもいけません。兄たちが私を売ったわけではなく、神様が私を先に遣わされました」ということをお話しました。

▶このようにヨセフの告白は、とても簡単でした。神様が私を導いてくださったということでした。また、パロ王の前に行った時にも、神様が私とともにおられ、すべてを悟らせてくださったと話しました。彼の中心にある主題がまったく異なっていたのです。

2) 出エジプト 5 : 1-12 : 46

▶80歳になるまで成功を追い求めていましたが、うまくいきませんでした。とうとうモーセは神の契約をつかみます。いままでにあった答えとは比較にならないようなことが、モーセの前に起きたのです。奇跡だけが起きたのではなく、多くの契約が成就されました。

▶リーダーである皆さんが、先に押さえていかなければならない部分があります。よく私たちは答えられるようにと望んでいますが、答えが先ではありません。答えを得ることが先ではなく、まず契約を正しく握ることが先です。契約を正しく握ることです。間違った契約を握って祈りの答えをくださいと言ったら、まったく意味がありません。ヨセフの兄たちは、間違った契約を握っていました。救われたのにもかかわらず。だから、死ぬほど苦しんだのです。ヨセフの兄たちが祈っていた祈りの内容は、すべて衣食住に関することでした。ヨセフが自分たちより良い衣を着て、よく食べている姿を見て、非常に憤っていたのです。私たちが日常生活でよくそういうことを見かけます。そういうことを見て、憎たらしいヨセフだということで彼を殺そうとしたのです。まったく話にならないような契約を握っていたのです。皆さん、これからは大きな答えが来た、来ていないというようなことは言うてはいけません。なぜなら、それこそ始まりが間違っているのです。

▶ヨセフはそのような言葉を話したことはありません。奴隷になったけれども、それも一つの過程に過ぎません。それは成功でもないし失敗でもありません。監獄に入った。それも一つの過程に過ぎません。そうですよね。ヨセフが握っていたことがあります。主は私とともにおられますので。正しい契約を握っていたのです。

▶モーセは日頃、何事もうまくいきませんでした。しかし、契約を正しく握った瞬間、自分が持っていた干からびた杖が、自分の力の杖になりました。皆さんは、未来を生かすリーダーです。皆さんがいま間違った契約を握りますと、一生苦労するようになります。いま皆さんは、契約を正しく握らなければなりません。モーセがイスラエルの民を連れ出しました。ある意味、それも答えというより、一つの過程に過ぎないことでした。ある意味、福音を正しく悟ったならば、奴隷にまでなる必要もなかったので

すが、奴隷になってしまいました。エジプトからほとんどの人が出てきましたが、出た後に契約を握っていない状態でした。だから、彼らはどのように発言したでしょうか。エジプトから出てすぐ目の前に紅海に会います。すると、ほとんどの重職者はこのような言葉を言いました。正しい契約を握っているとしたら、どのように言うべきだったでしょうか。私たちは血の契約を塗って、血の契約を握って、エジプトから出てきた。神様は私たちを紅海をも渡るようにさせてくださる。たとえ私たちが渡ることができないとしても、私たちは突き進むのだと言うべきでした。そのように語るべきだったのです。でも、ほとんどの人々はどのように言ったでしょうか。戻ろうと言ったのです。私たちは、間違った指導者に会った。私たちがエジプトに戻れば、いのちが守られるかもしれない。このような状態だと、荒野で死ななければなりません。

▶皆さんは、契約を正しく握ってほしいと思います。どのような契約でしょうか。神様の絶対主権の契約です。思い煩いが多い人は、なぜ多いのかわかりますか。その人たちは、神様の絶対主権を信じないからです。心配する必要ありません。ヨセフとモーセは、神様の契約を正しく握りました。

▶のちにまた、なんとやったのでしょうか。いまカナンに住んでいる敵たちは、震えておののいていてと言っていました。12人の偵察人が行って、10人の偵察人はなんと言いましたか。間違った契約を握って報告しました。私たちがカナンに行ってみると、町がとてもとても大きい。将軍はみな巨人で、私たちは絶対勝つことができないと報告しました。そう報告したのです。神様との契約とはまったく合わない報告でした。その時、ヨシュアとカレブが言った告白があります。「いいえ、違います。いいえ、カナンの地は乳と蜜の流れる地であり、神様が私たちに備えてくださった土地であり、そして、彼らはすでに震えておののいています。だから、私たちは進むだけでいい」ということを告白しました。神様の契約を堅く正しく握りました。もしも会議を開いたとしたら、その10人の偵察人の言葉の方が合っていたかもしれせん。

▶このように、神様の契約を正しく握らないと、とても恐ろしい結果をもたらしてしまいます。そんな言葉を話した人たち、その偵察人の告白以降、38年間、荒野ですべて葬儀を行ったわけです。一気に荒野ですべての民が死んでは大変なことになりますから、ひとりひとり長い間、時間をかけて葬儀が行われました。エジプトから出てきてカナンに入国する直前に偵察人の報告があったわけです。その場所がカデシュ・バルネアです。そこまで来るのに2年かかりました。ほとんどカナン入国直前です。10人の偵察人が「私たちはもう行けません」と言ったので、イスラエルの民はそれを聞いて嘆いて泣いたわけです。そんな中、ヨシュアとカレブは契約を握って告白しました。そこでモーセは入国することに対して確信するのです。

▶のちにアナク山地でまた会いました。また大騒ぎしました。皆さん、信仰生活をこのようにしてはいけません。少し問題が来ればまた大騒ぎします。その時、登場したのは誰でしょうか。老人カレブが登場します。45年経ちました。カレブは85歳になりました。そこでとても重要なことを話します。私たちは、昔カデシュ・バルネアですべての民が集まっていたとき、ほとんどの人々はカナンに入国することはできないと言っていた。そこで私たちは信仰の告白をしたのではないか。そこで入国することができると言ったのではないか。その時、神のしもべモーセが、私たちも入国できると語られたのではないか。そして、いま私たちはカナンにいる。神の契約を握ってカレブは話しました。この最後の戦い、アナクの山地を私に与えてください。若者も震えているのに老人カレブがそう言ったのです。モーセ指導者が入国できると言われましたが、いま45年が過ぎました。そして、自分の年齢まで言いました。私はいま85歳だ。しかし、歩くことも走ることも、昔も今も同じだと言いました。そんな私にこの山地を与えてください。友人であるヨシュアにそう言いました。カレブは友人同士であったヨシュアに対して、まるで指導者に話すかのように話したのです。主がもしも私とともにおられるならば、必ず入ることができると言いました。この「もしも」という言葉と「必ず」という2つの言葉がおもしろいです。カレブは自分自身のことを言うときには、不信仰があるかのように話したでしょう。でも、主がともにおられるならば…。自分はできないけれど、主がともにおられるならば、必ず入ることができる告白しました。

▶皆さん、答えを受けようと考えないでください。契約を正しく握って、契約の中に留まることが答えです。だから、その間に働かれるわざというのは、一生涯のものです。契約を知らずに突き進むという

ことは、とても不安定です。私たちのレムナント運動も契約に従って行くのです。神様は時代ごとに、この福音がなくなるたびにレムナントを起こしてくださいました。これが契約です。これは人がやることではありません。契約です。絶対契約です。お分かりでしょうか。皆さんはリーダーです。リーダーが契約を握っていませんと、外側の人たちを導いていくことができません。皆さんが正確な契約を正しく握っていれば、答えは自然とついてきます。神の答えが皆さんに来ると、他の人はついてくるしかありません。これは仕方ないことです。見る目が違いました。では、御覧ください。

3) I サムエル 7 : 1-15

▶サムエルです。この 7 章はミツパ運動です。ミツパ運動が起きる前に、イスラエルが滅亡を受け、契約の箱を奪われてしまったでしょう。そのときにどうなったでしょうか。エリは目がかすんで、自分の床に寝ていたと言われていました。しかし、幼いサムエルは契約の箱の横に寝ていたということです。これは異なる霊的状态です。答えが重要なわけではなく、いまどこにいるのかが重要です。その時、サムエルは神様の声を聞きました。つまり、神のみことばが幼いサムエルに臨まれたということです。その日以来、サムエルの言葉は一言も地に落ちることはなかったと言われてしています。(I サムエル 3 : 19) そのサムエルがミツパ運動を行いました。神様のみことばは成就されます。なんの心配もしないでください。サムエルが生きている間、戦争がなかったと言われてしています。サムエルを見た者は、神を信じたとも書かれています。このサムエルが作り出した人がダビデです。

4) I サムエル 17 : 1-47

▶ゴリアテに打ち勝ったときのことを見てください。異なる人物です。レムナントの皆さん、リーダーの皆さん、伝道者の皆さん、神の確実な契約を確実に握ってください。どんなにすばらしくても、間違った契約を握っていると、間違った答えを迎えてしまいます。どんなに良く正しく生きたとしても、間違った契約を握っているなら、間違ってしまう。たとえ私たちが少し欠けている部分があるとしても、契約を正しく握れば、主がそこに働かれます。

▶最近、私が悩んでいることがあります。レムナント運動がどんどん続けて起こされるのに、これからの場所で、どこでやればいいのかということをお心配して祈っています。それはとてもすばらしい悩みごとです。皆さんがどんどん現場で実を結んでくださいますから、続けて起こされると思います。後には噂されて、皆さんの年齢でも霊的問題を抱えている子たちはたくさんいますから、皆さんに訪れてくると思います。3 つの団体によって、本当にだめになってしまったアメリカ、精神病がどんどん増えていくと思います。偶像崇拜が最高だと思っている日本、霊的問題はもっと深刻になっていくと思います。だから、日増しに伝道運動は起こされて行くと思います。正直に語ります。皆さんの未来も学業も何事も心配する必要がありません。契約の中にいることです。堂々とした信仰者になってください。ダビデはどれほど堂々としていたのでしょうか。I サムエル 17 章を見ると面白い部分が出てきます。兄たちやサウル王はまったく聞くもできなかったことが出てきます。ダビデに会ったゴリアテはなんと言ったのでしょうか。どのように言ったのでしょうか。ゴリアテは、自分が仕えている神々の名によって、ダビデを呪ったと言われてしています。これが重要です。神々の名で自分が呪われているということをダビデは正しく聞きました。そのダビデの答えです。あなたは剣、槍、投げ槍をもって立ち向かうが、私は万軍の主の御名によって立ち向かうと言いました。とても重要な契約を伝達したのです。全世界に主がまことの神であることを証明する。命はこの剣にあるものではなく、主の御手にあることを証明すると言いました。レムナントの言葉です。すごい言葉です。これはすごい信仰だというわけではなく、正常な信仰です。皆さんが異常かもしれません。ダビデは正常です。私たちはなにかすごいことが起きたということで、おあかしをしたりもしますが、ダビデが語った言葉です。そして、またこう言いました。今日、主はあなたの首を私の手に任された。確信があったのです。どうしたらゴリアテに勝てるだろうか。そうではありません。どのような戦略を持って勝つのか、というわけではありません。すでに王になっていることをダビデは知っていたのです。事実上、ダビデは、イスラエルの王の名によって立ち向かいました。一気にゴリアテを打ち倒します。ゲームにならない相手でした。piece of cake です。お茶の子さいさいです。

▶ですから皆さんは、堂々と契約を握っていただきたいと思います。これがリーダーです。教会へ行ってみてください。99%でたらめなことを話しています。でも、皆さんは契約を握っていれば大丈夫です。人々が集まるところには、人間の話が出てくるしかありません。でも、神の御声を聞いてください。人々

が集まれば、他人のことばかり言います。皆さんは、おあかし人になってください。それで十分です。そして、世界福音化をしても残る祝福が皆さんにあるはずです。神が働かれ、少年ダビデはゴリアテに一気に打ち勝ちました。

5) バビロン

▶そして、またレムナントたちを見てみたいと思います。バビロンでは、どんなことが起きたのでしょうか。イザヤの契約をすでに聞いて握っていた者たちです。捕らわれ者になりましたけれども成功をしたのです。でも、彼らは成功したとは思いませんでした。彼らは心に主の契約を定めたのです。その信仰でこそなります。そして、偶像崇拜をしなかったということで死ぬようになりました。王はとても残念がって彼らに聞きます。「あなたがたは知っているのにもかかわらずそうしたのか。それとも知らないからそうしたのか」と聞きました。「あなたがたに一つチャンスを与えよう。いまこうやってラッパが吹き鳴らされると、そこで一度だけでいいから拝みなさい」。でも、若者たちは答えます。「私たちは、王様のその言葉にお答えすることはできません」。王がどれほど憤ったのでしょうか。自分が聞いたことに答える必要がないと言ったのですから。「私たちは、この火の中に入れば、主が私たちを助けてくださるでしょう」。その後の言葉がより重要です。「たとえ助けてくださらないとしても」。簡単に言えば、火の中に入って死ぬとしても、私たちは偶像に拝むことはできませんということでしょう。ダニエルは、文書に禁じられたということが書かれてあることを知っているのにもかかわらず、ということは死ぬということが分かっていたのです。それにもかかわらず、彼は感謝して祈り続けたということでした。それが契約です。これが答えです。

▶私たちは、答えというものをどうしたら受けられるのか、これだけをしきりに考えます。あまりにも基本の生活もできないレベルですから、答えの求め方もそうかも知れません。私はいままで多くの祈りをしてきましたが、答えられたことはありません。どんな答えなのか。来たこともよく分かりません。でも、振り返ってみると、すべてが答えられていると感じました。どれくらい答えられたかと言いますと、こちらにいらっしゃる常任委員会の先生方と 500 人の伝道者たちに会うことができました。これが答えです。これより大きな祝福、答えがどこにあるのか聞いてみてください。ありません。こんなことは絶対言ってはいけないと思うのですが、牧師先生方の中にも詐欺師がいます。でも、こちらにいらっしゃる先生のように、レムナントのために福音運動をする、このような方々とお会いすることができたということ自体が最高の答えです。これよりも大きな答えがどこにあるのでしょうか。また、ところどころでレムナントが起こされています。とても賢いレムナントたちがたくさん起こされています。だから、これ以上に大きな祝福がどこにあるのでしょうか。答えはこれだと言った時、これ以上の答えはないと思います。皆さん、心配しないでください。契約を正しく握ってください。神様が願われることをしてください。必ずそれは成し遂げられます。

▶バビロンでエステルが言いました。死ぬなら死ぬと告白しました。レムナントです。どれくらいだったのでしょうか。エステル 2:10 を見ると、王妃になって王宮の中に入る時、あなたがユダヤ人であることを語ってはならないと言いました。絶対に語りませんでした。自分がユダヤ人であることを明かさなかったのです。そこには契約が隠されていました。もしも皆さんだったら、これは言っちゃだめよということも友人に内緒だけど…と言いながら話すかもしれません。イスラエルの民族が皆殺されそうになりました。その時に語りなさいと言いました。すると、モルデカイはこう言いました。「神があなたを王妃として立てたのは、この時のためではないか」と。「神様が皆さんを召されたのは、この時のためではないか」という時があるのです。もしもあなたが静まり返っているならば、主は他の方法を通してまで導かれるということです。しかし、あなたと私の家、家族、民族は、みな滅亡すると言いました。でも、エステルは答えました。死ぬなら死にますと言ったのです。なにもそれ以上のことはありません。それが彼女の契約でした。答えがあるとかないかではなく、死ぬなら死ぬと言いました。法を犯し王がいる王宮の中に勝手に入ることは大変な問題でした。どうしてその当時はそこまで厳しくしたかと言いますと、あまりにも王の命を狙っている人が多かったからです。だから、王の許可なしでは、誰も王宮には入れませんでした。食事を持って王様の前に行く人も決まっていました。皆さんのように、これはおいしいものですからちょっともてなそうと持っていくと殺されてしまいます。エステルが、王様といつ会うという約束もしていないまま、ただ会いに行くということは容易なことではありません。でも、エステルは行きました。法律を破り、死ぬ覚悟をして行ったのです。そして、王がエステルを見ました。王様が他の国の首脳が来た時にやるがあります。王様が持っている棒みたいなものを笏(し

やく)と言います。金の笏です。なんとアハシュエロス王は、エステルを見た瞬間、自分が持っていたその笏をあげてしまったのです。とてもとても会いたかったようです。ですから、そのように表現しました。そして、どうしたのか。どんなことがあるから来たのか。そして、この国の半分をもあなたに与えるからぜひ言ってご覧なさいと言いました。皆さんならば一気に「実は、私は…」と全部話してしまったかもしれません。他人のことまでも言い出し、他人のこともよく話すわけですから、自分のことなど達者に言ったかもしれません。でも、エステルは契約を持った人でした。王様に丁重にお願いしました。私が自分の庭で宴会を開きますからご招待しますと言いました。宴会というのは、王宮の中では一つの政治です。それで王様は行きました。とりあえず宴会を開いて、いろいろ食事ももてなされているのですが、あまりエステルは食べていません。それでもう一度聞きました。私があなたにこの国の半分でも与えるから、いまどんな悩みがあるのか言ってみなさいと言ったわけです。そこまで言うのであれば、皆さんならば、一晩中お話するでしょう。エステルは言いました。「王様。もう一度宴会を開きますから、ぜひ来てください」と。それで分かったということでした。「その時は、ぜひハマン総理も一緒に連れてきてください」と言いました。ハマンは内心思いました。「やっぱり王妃が私を認めているんだな」と。それで一緒に来ました。ハマンが座っている時に、エステルは言いました。「いまある一人が嘘をついて、ユダヤ人が皆殺されそうになりました」。そして、その時、告白します。「私はユダヤ人です。ある人が嘘をついて、お金をかけて、すべてのユダヤ人を殺そうと策略を練りました」。すると、王は本当に憤って、「一体誰がそんなことをしたのか」と尋ねます。「あなたの横に座っているハマンです」と言いました。聖書にどう記録されているかと言いますと、王はあまりにも憤ってしまって、呼吸もまともにできなくなりました。王はそのまま庭に出て呼吸をしました。最近の私たちの言葉で腹式呼吸をしたということです。あまりにも息苦しかったのです。すると、ハマンがエステルの足首をつかんで、助けてくださいと言いました。どのように握ったのか分かりませんが、王が庭から部屋に入った瞬間、ハマンがエステルの足首を握っているわけですから、王は命令を下します。あの悪いハマンを今すぐ処刑にさせなさい。これがプリムの祭です。神様の絶対契約を握っている者は揺れません。皆さんがこの契約を持っていかなければなりません。

6) II列王2:9-11

▶レムナントの皆さん、見てみてください。皆さんご存知のように、エリシャのような人物はいかがでしょう。異なる人でした。他の人々はギルガル、ベテル、エリコに留まっていたが、このエリシャは契約について行きました。私に霊の2倍の分け前を与えてくださいと言いました。そして、エリシャによってドタンの町運動が起きたのです。

7) 初代教会

▶どんなに弱いとしても、初代教会はなにを握っていたのでしょうか。神の契約を握っていたのです。

▶では、ここに記録された人たちの共通点があります。神様の契約を握っていた人たちなのですが、共通点があります。リーダーは、この契約をもって24時できなければなりません。こうすると世の中はひっくり返されます。お分かりでしょうか。正確な契約で24時になるべきです。皆さんの教会、タラップン、誰も止めることはできません。なぜなら、ただ福音を伝えなければならないからです。そうです。誰がこれを止められるのでしょうか。神様に打ち勝てる者がいるのでしょうか。いません。皆さんが迫害されるくらいであって、何の関係もありません。イエウオン教会をはじめ、建築をされている教会に、神様は驚くべき証拠を与えてくださるはずです。なぜなら、契約は変わらないからです。神様の絶対契約は変わりません。24時。これができる人は、大きな働きを体験します。すでに福音を持っているからです。福音の中での24時ですから。皆さんは、福音、この契約を握っています。レムナントです。アメリカの南北戦争は黒人解放の戦争でした。そのときリンカーンは、このようなことを言いました。戦いに挑むときの言葉です。「神様が私たちとともにいてくださいと祈るな。なぜなら、神様は私たちとともにおられるからだ。あなたが神とともにいるようにと祈りなさい」と言いました。信じる、信じないとしても関係なく、神は私たちと24時間ともにおられます。ただ、私たちがこれを味わうことによって、世界を変えることができるということです。

▶本論に入る前にいくつかの特徴をお話したいと思います。皆さんにぜひ参考にしてほしいと思います。

1) 人×・神から学ぶ

▶人から学んではいけません。主を見上げることです。祈りはどうするのか。人から学んではいけません。皆さんが本当に 24 時、主を見つけることによって、驚くべき答えを発見できるようになります。必ず記憶しなければなりません。神様から学んでください。

(1) みことば・神様はみことばを与えてくださいましたので、みことばの流れに従って。

(2) 祈り・いまも答えの神ですから、祈りに流れによって…。

(3) 伝道・いまも神様は福音を回復させていらっしゃいますから、伝道の流れによって…。

▶みことば、祈り、伝道、この 3 つの流れによってやってください。

2) 24 時のターニングポイント

▶必ず記憶していただきたいと思います。それでは 24 時という重要なターニングポイントがあります。どんなターニングポイントでしょうか。

(1) ホレブ山・なぜ神様は、イスラエル民族の中で、祈りの答え受ける人々をホレブの山に呼ばれたのでしょうか。

(2) オリーブ山・イエス様はなぜオリーブの山に呼ばれたのでしょうか。

(3) 荒野・なぜ、ある時は荒野に召されたのでしょうか。

(4) 川岸・なぜ、ある時は川岸に召されたのでしょうか。

(5) 海辺・なぜ、ある時は海辺に召されたのでしょうか。

▶この場所で御働きが起きるといことなののでしょうか。違います。重要なときに主を見つめるための集中の場所でした。私があなたがたの敵を、私の力の御手によって打ち倒す。なにも心配する必要はありません。皆さんがこの契約を握っていますと間違いなく重要な答えが出てきます。

3) 24 時（神）→脳（神の力）→たましい

▶どのような答えが出てくるのでしょうか。この 24 時というのは、単なる 24 時ではありません。神様のみことばのいろいろな部分が、皆さんの脳に刻印されるということです。脳に刻印されたみことばは、私のたましいに刻印されます。そうすると、神様は皆さんの中に、無限の力を与えてくださいます。そして、この力は単なる力ではなく、神の偉大な力です。それによって、私たちとともにおられます。これが 24 時です。

▶本論 - この段階に至ると、次に出てくるものがあります。

1. 絶対課題

▶絶対的な課題が見つかるようになります。

1) キリスト

▶皆さんが汚名をかけられても関係ありません。皆さんがいま汚名をかけられているとかどうなっているとか関係なく、新約聖書、旧約聖書をトータルしていちばん重要なキリストの奥義です。

2) 神の国

▶法的に止められるとしても、神の国が臨まれるようにという祈りの驚くべき課題が出てきます。

3) 証人

▶死に至ることがあっても、迫害が来ても関係ありません。ただ聖霊によって皆さんを証人として立ててくださる驚くべき祈りの課題が与えられます。

▶この 3 つは、私のものとして作られなければなりません。自分のものにならないとできません。世界を動かしていくリーダーの皆さんは、このキリスト、神の国、証人、この部分が私のものとして作られなければなりません。どのように 24 時になるのか。どう自分のものになるのでしょうか。この 24 時の形、先程言った人に学んではいけないという部分、これらが私たちのものになっていかなければなりません。この中に入ることによって、クロスビーのように祈ることができます。「神様、私はいままで

世の中を見るのが自分の願いごとでした。それは昔の祈りの課題です。いまの祈りの課題は、見えなくて結構です。なぜなら神様が私を導いてくださるからです。私が行く道、すべてイエス様が導いてください。そのイエス様の愛はとても大きく、口で語る事ができません」と言いました。乾いた土地を一日中歩いて、全部の道を行くことが賛美です。だから、これがすべてです。世界を動かすリーダーは、ただキリストで 24 時をしてください。24 時は難しいでしょうか。誰にでも与えられた 24 時です。誰かは不信仰 24 時だと思えます。ですから、うまくいきません。誰でも心配 24 時であるならば、だからうまくいきません。ある人はぼーっとしている 24 時をしています。だからぼーっとした 24 時になってしまいます。主に向かって契約を味わう、この 24 時の契約の中に入ってください。

2. 絶対答え

▶この時から、絶対答えが与えられます。絶対答えは为什么呢。

- 1) WITH
- 2) Immanuel
- 3) Oneness

▶他の答えはいりません。これが本当の絶対答えです。

①WITH、神が私とともに、完璧な形でともにおられます。目に見えない形です。目に見えるのはすべて偶像です。

②Immanuel、私たちとともに。

③Oneness、すべての事柄を働かせて益とし、神様のみこころを成し遂げられます。いままで難しいと思っていたことが、なんとそれが神の計画であったのです。絶対答えとして現れます。これは誰も奪うことはできません。答えがなくても大丈夫です。なぜなら、これ自体が答えです。神様は私とともに、私たちとともに、そして、すべての事柄の中でともに。これが答えです。リーダーの皆さん、24 時になってください。24 時にならない理由は、この前に言った 3 段階、序論で言った 3 つの部分を見てみてください。皆さんは特別に深い時間を設けて、ぜひやってみてください。

▶そうすると、自然な形で楽に 24 時を味わうことができます。これだけではありません。

3. 絶対時刻表

▶皆さんの未来は残っています。絶対時刻表です。神様が絶対者であるからです。

- 1) 24、25、永遠

▶この時から現れるものがあります。私に与えられるのが 24 時だけではありません。とうとう世の中の人々は到底理解できない 25 時の答えが与えられます。誰も止められない永遠という答えが与えられます。

- 2) Nobody

▶これだけではありません。神様は皆さんに必ずその日を与えてくださいます。その日とは、Nobody です。つまり、皆さんは、誰も行けないところに行くことができるでしょう。驚くべきことです。

- 3) 王

▶レムナント 7 人はひとりも例外なく、王の前に立たされました。驚くべきことです。どうしてなのでしょう。世界福音化のためです。すぐに御働きが起きます。しかも一番大きな強国、世界を動かす王の前に。夢のような漠然とした話かもしれませんが、しかし、主はヨセフをパロ王の前に立たせました。モーセをパロ王の前に立たせました。ダビデをサウル王の前に立たせました。エリシャをアラムの王とイスラエルの王の前に、ダニエルをネブカデネザル王の前に立たせました。このように事件がそう作られていきました。ダリオスの王の前に、その前にベルシャザル王の前に、後には誰の前に立たせましたか。クロス王の前にです。4 人の王を通過しました。ものすごいレムナントです。3 人の王のときに総理を務め、後にクロス王にも認められたのです。そのときクロス王の約束は、イスラエルの民を皆解放させ、自分の国戻りなさいと言いました。

▶今回の祈りの課題は、すべて胸に留めて祈ってください。神様が与えてくださいました祈りの課題です。バヌアツの集会では、14カ国の王が参加されます。今後70カ国のアフリカの門が開かれると思います。そして、島国であるフィリピンの門も開かれると思います。誰も止められない方法で、主がなさると思います。私たちが宣教できなくなるように妨げた団体もあります。でも、先週、通過されました。私たちをととても悪く言うある牧師一人がいるようなのですが、韓国の人ではありません。韓国の人はそれが専攻ですが…。バヌアツ人の中で私たちを悪く言う人の肩を持ちながら、私たちを悪く言う人がいました。でも、その本人が言ったそうです。タラップン伝道運動は神学的に、聖書的に、実際には何の問題もありませんと。それを総会で決議をしたということでした。そして、こう尋ねたそうです。タラップンを悪く言うその韓国の牧師に対して、「あなたは神の働きをしていますか。それとも悪魔の働きをしていますか」と尋ねたそうです。いろいろな形で神様が門を開いてくださっています。

▶契約は変えることができません。福音は誰も止められません。皆さんは堂々と契約を握って進んでください。答えられたとなったときに、それが重要なものではありません。より大きな答えは、三位一体の神様が皆さんとともにおられるということです。これでおしまいです。

結論 - 証人

▶では、この契約を正しく握った人は誰でしょうか。多くの証人がいます。

1) RT7

▶まずレムナント7人が証人です。

2) ヘブル 11 章

▶ヘブル 11 章に記録された人たちが証人です。

3) ローマ 16 章

▶初代教会とローマ 16 章の人々が証人です。これで十分です。

▶確実な証人です。これを握って進むことです。これがリーダーです。この部分からできていきますと、世界を動かすことができます。24時になると、病気も治そう、治そうと思わなくても自然になくなります。24時になりますと、いつでも神の御働きについていくことができます。昨日もお話させていただきましたアン・イスクという牧師婦人の告白のように、私は火の中にも進むことができます。私は水の中にも行くことができます。なぜなら、そこでも主である神が私とともにおられるからです。こういう告白は、もうお手上げです。誰も止められません。本当にそのような信仰を持っていた方です。私たちに答えがなくても結構です。なぜなら、神様の契約の中にいるからです。私が神の契約の中にいるならば、どこにいても大丈夫です。私が力の神のもとにいるならば、どんなことが起きたって構いません。まずはここから握って押さえていくべきです。

▶今日の夕方は、本当にレムナントを生かすためにリーダーの皆さんが必ずしなければならないことはなにか。これは誰もが握らなければならないことなのですが、今日の夕方には、これから私はリーダーとしてなにをやっていくべきかということを探していきたいなと思っています。そこで本当にさらなる祝福の始まりとなりますように。また、もう一つの神様の計画がなされる祝福の時間になっていただきたいと思っています。

▶お隣の方を祝福しましょう。「あなたは世界を生かすリーダーです」。レムナントのリーダーだけではなく、世界を生かすリーダーです。もう一度お話しします。「あなたは王たちを生かすリーダーです」。よく信じられないかもしれませんが、そんな日が必ず来ます。お祈りします。

(祈り)

神様、感謝します。全国世界を生かすレムナントのリーダーが集まりました。レムナント7人のよう

に、24時の奥義を味わうことができますように。どこにいても、主を待ち望み、主を味わう奥義と力を持つことができますように。どんなことがあっても、どんなことが起きても、この契約の中に留まることができますように。そして、自分の教会と世界の教会と現場を生かす証人となりますように。万軍の主であるイエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン